ひゃくちゃん通信

第25号
令和元年6月

〒421-1221
東海フーズ株式会社
静岡市葵区牧ヶ谷2037
054-277-1667㈹

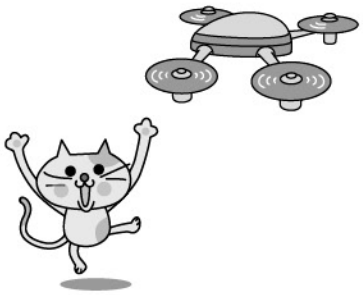
こんにちは！その後、皆さんは毎日元気にお過ごしでしょうか？

僕の生活は相変らずで、食後の散歩…もとい、見回り警護が日課なのですが、四月半ばからここ静岡の町のあちらこちらで「新茶」ののぼりが風になびいている光景が目に映ります。

生産者の皆さんが一年間丹精こめてお世話をしてきた大切なお茶の葉を、職人さんが加工して、一軒一軒の「お茶屋さん」の好みに仕上げていくわけですから、普段当たり前に飲んでいるお茶も、もっと感謝して飲まないといけないなぁ～とこの時期になると思います。

ところで「お茶」に限らずですが農産物全般に後継者不足が深刻な問題になっているようで、残念な事に耕作放棄されている田んぼや畑をよく目にするようになりましたが、寂しい光景だと思います。もちろん、やむにやまれぬ事情があっての事だとは思いますが、これだけ科学も進歩した時代に何か出来ることはないのかなぁ～と思って仕方ありません。聞くところによると、骨の折れる水やりや、農薬散布などの作業を今話題になっている「ドローン」を使って行うことで、労働の軽減化を図っているところもあるようですので今後に期待したいですね！

そう言えば、その話で思い出しましたが、僕もその昔、算数の授業の時に頭の回転がついて行けなくて、ついウトウトしていたら先生から「こら！目がドロ～ンとしているぞ！」と注意された事がありました…



時代の移り変わりと共に、身の回りのあらゆる事が変化していきますが、今回は営業社員が奈良県にあるお客様から伺ったエピソードをご紹介させていただきます。

お店に入った正面にレジとカウンターがありまして、クリーニングの取次をしている店主である奥さんがカウンター越しに出迎えてくれます。カウンターに向かって右側には、仕上がってきた衣類が整然と並んでいて、カウンター前の棚には東海フーズの商品や、時には地元のこだわり野菜や果物が並んでいて目を楽しませてくれます。

そして、そのまま左に目をむけると、今となっては懐かしい「駄菓子」のコーナーが…

お店は地元の小学生たちの通学路に面しているので、放課後ともなると地元の子供たちが目を輝かせながらやって来ます。

近くにコンビニもあるのですが、限られたお小遣いで買い物をする子供たちにとっては、こちらの方が魅力的なのかもしれません。

ところが、困ったことがありまして、その子供たちにまぎれこんで「黒い小ネズミ」が度々悪さをするようで、ちょっと目を離した隙に棚のお菓子が行方不明になってしまうそうで…そのせいで、いつも棚卸したところで数字が合うことなど有りませんし、まして、元々単価の低い「駄菓子」ですから、いくら奥さんが儲け度外視とは言っても続けるのは容易ではありません。

手間ばかりで、利益どころか赤字続きでは…何度も「駄菓子」の取り扱いをやめようと考える奥さんですが、あの目を輝かせる子供たちの事を思うと決心はつきません…

そんなある日の事、奥さんが一人で店番をしていると、中学生になったばかり位の男の子が突然お店にやって来たそうです。

その男の子は、真っ直ぐ奥さんの前に来たかと思ったら「僕は以前、ここでお菓子を盗みました…すいませんでした」そう言って頭を下げていくらかの小銭を置いて帰っていったそうです…

しばしあっけに取られた奥さん…

我に返って状況を把握した奥さんですが、その男の子が持ってきた小銭をどうしてもそのままレジに入れる気になれなくて、しばらくの間、仏壇にお供えして毎日手を合わせていたそうです…

どんな思いで奥さんが「小銭」を仏壇にお供えしたのかは、とても僕ごときに理解できることでは有りませんが、男の子がこの事をきっかけに良い人生を歩んでくれたらいいな、そうしたら奥さんも救われるな、と思いました。

因みに、もちろんですが奥さんは今でも「駄菓子」を扱い続けていらっしゃいます。

思い返せば、僕の子供の頃はコンビニなどは存在しなくて、お菓子を買うとなると、近所の酒屋さんが駄菓子を置いてくれたので、そこが行きつけでした。

そのお店もずいぶんと昔に閉店されて、今となっては日に焼けて白っぽく変色して文字も読み取りづらくなったお酒の看板だけが名残を残すようになってしまいました。

東海フーズのお客様は北海道から九州迄、地元で頑張っている個人商店さんがたくさんいらっしゃいます。

そうしたお客様のお役に立ちたいというのが、東海フーズの創業以来の変わらぬポリシーです。

みんな！
頑張るぞ～！
えい！えい！お～！